

● AIを前提にした業務プロセス等の再設計が必要に

～AI導入フェーズ

既存業務を効率化するためにAIを一部補助的に活用するビジネスモデル



人を中心に構築された
コアプロセス

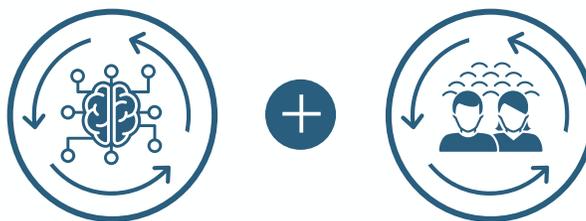
補完するもの
AIを含むデジタル
ツール

主な特徴

- AIは業務効率や支援に使われるが価値創造の中核業務はになっていない
- デジタル強化の延長として活用される段階

AI拡大フェーズ

AIを組み込んだプロセス設計が進み、価値創出に向けて人をAIが補完する "共創型" ビジネスモデル



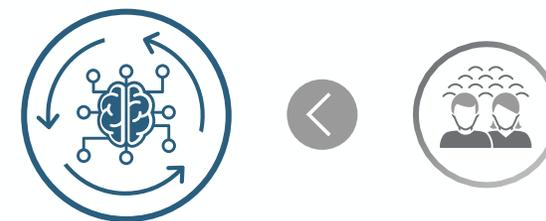
AIエージェントと人が業務を分担

主な特徴

- AIエージェントが業務プロセスの中に入り始める
- 人がAIエージェントが業務をを分担し協働

AI駆動フェーズ

AIを企業活動の中核に据え、**業務プロセス・組織構造・意思決定・提供価値がAIを前提に設計**されている "AI駆動型" のビジネスモデル



AIエージェントを中心に
構築されたコアプロセス

補完するのは人

主な特徴

- 意思決定や業務がAIを前提に設計されている
- 組織構造・人材配置・インフラもAI起点で再構築済み

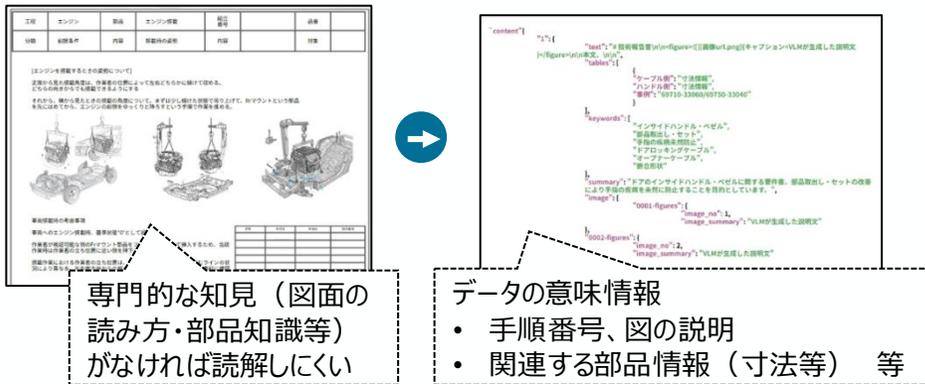
● 現場ノウハウを元にデータを整理してAI化する必要

■ データセキュリティ・ガバナンス (統一された管理/継続的な改善)

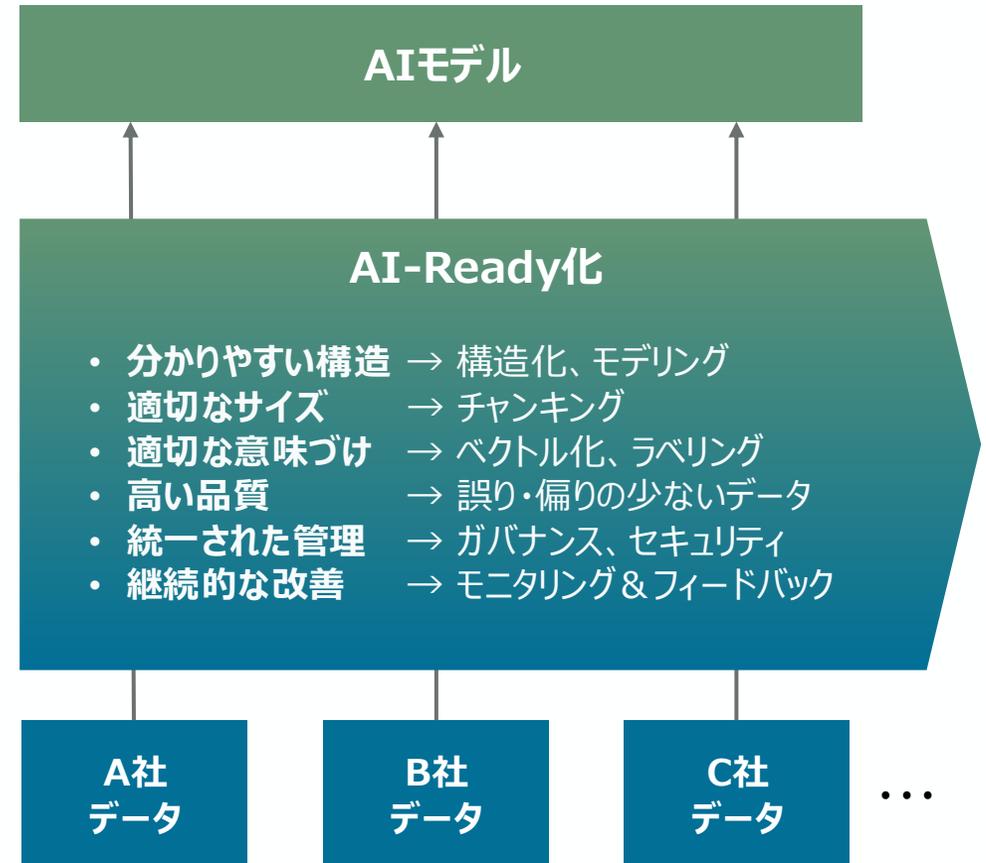
- 匿名化、暗号化などデータ保護のための処理
- データの利用権限や利用用途の管理 等

■ AIが理解できるデータへの変換 (分かりやすい構造/適切なサイズ/意味付け/高い品質)

例：手順書



出所：フライウィール社資料より作成



● データマネジメント人材の育成

全てのビジネスパーソン（経営層含む）

<DXリテラシー標準>

全てのビジネスパーソンが身につけるべき知識・スキルを定義

- ビジネスパーソン一人ひとりがDXに参画し、その成果を仕事や生活で役立てる上で必要となるマインド・スタンスや知識・スキルを定義し、それらの行動例や学習項目例を提示

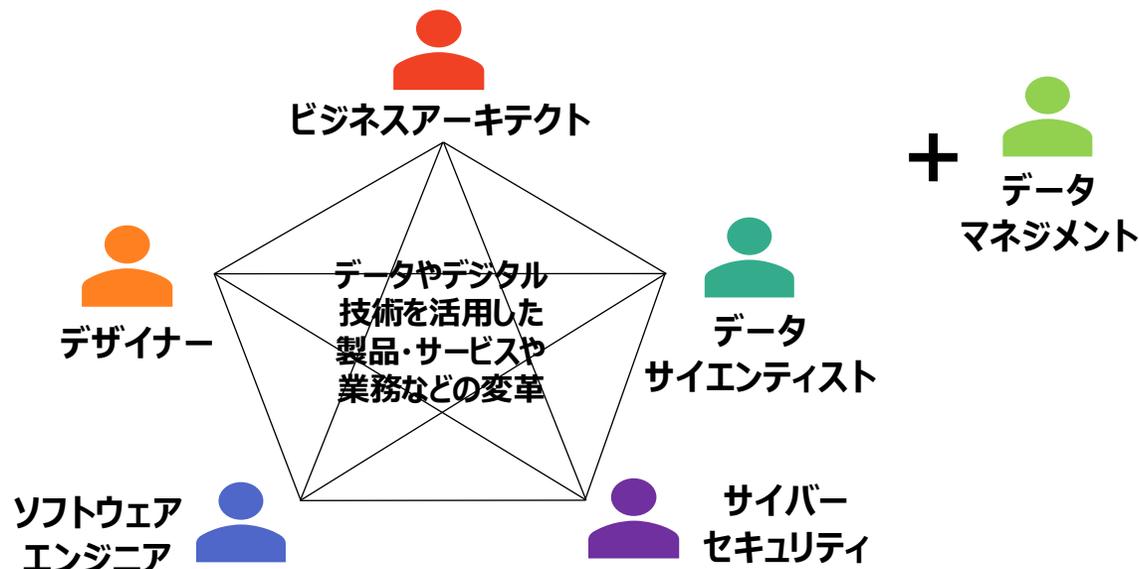


DXを推進する人材

<DX推進スキル標準>

DXを推進する人材タイプの役割や習得すべきスキルを定義

- DX推進に必要な5つの人材類型、各類型間の連携、役割、必要なスキルと重要度を定義し、各スキルの学習項目例を提示



GENIAC (Generative AI Accelerator Challenge)

- AIモデルの開発とデータセットの構築を支援するプログラム。2024年2月から開始。

のべ53件採択
(公募3回)

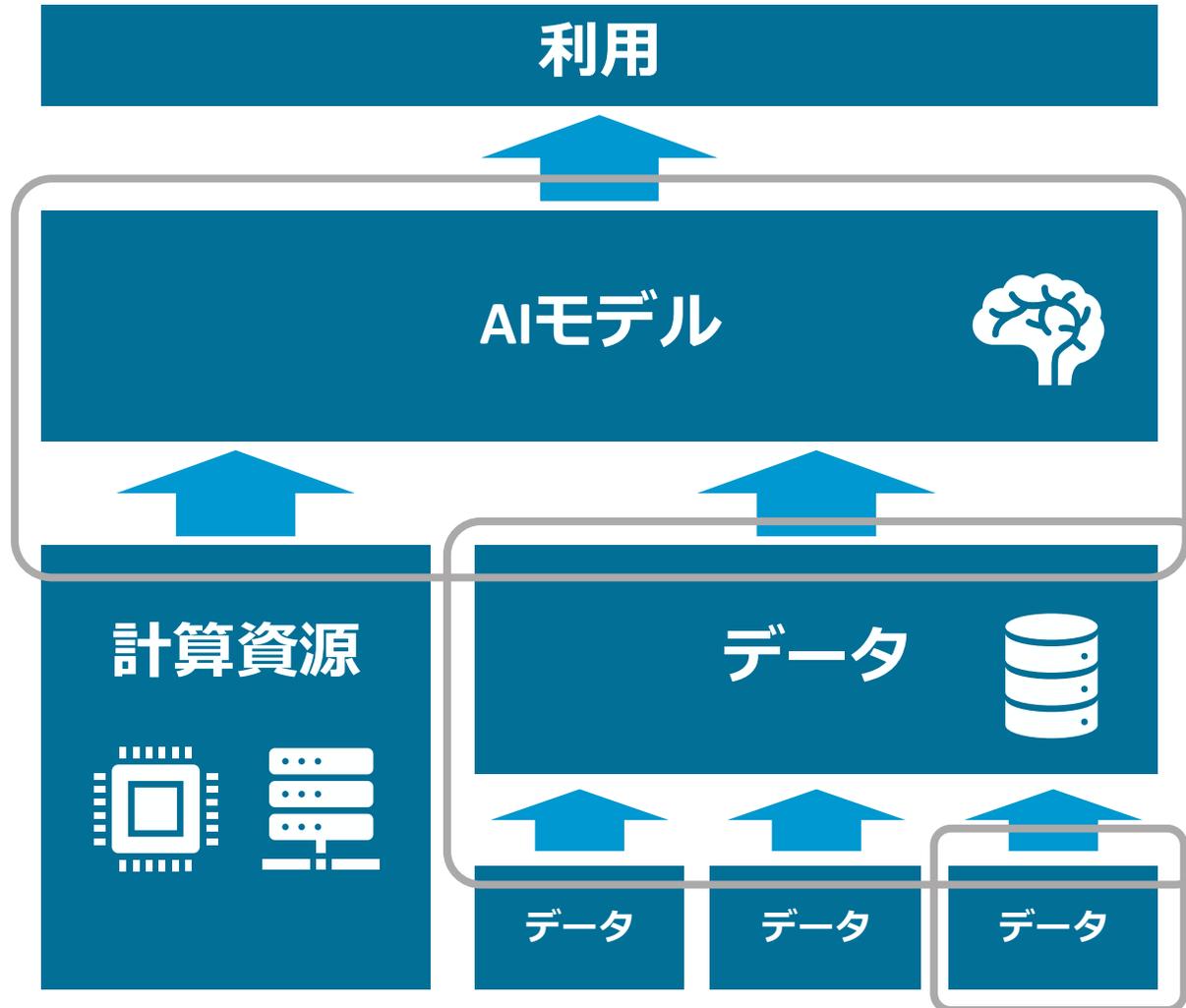
①AIモデルの開発支援

- ・ 計算資源の利用やデータの取得に要する費用を補助
(大企業：1/2、中小・SU：2/3)
- ・ 技術先進性の高いもの and/or 現場で利用実証するものを採択

新規!!

ロボット基盤モデルの開発支援枠を新設

- ・ ハードウェアの構築費等も補助対象に
- ・ 取得したデータはAIRoAに共有



④コンテスト (GENIAC-PRIZE)

- ・ 懸賞金コンテストを通じ、すぐ使えるAIアプリ開発等を促進

③コミュニティの活動支援

- ・ 開発者同士/利用者同士の勉強会、開発者と利用者のマッチングイベント等を実施



のべ10件採択
(公募3回)

②データの収集支援

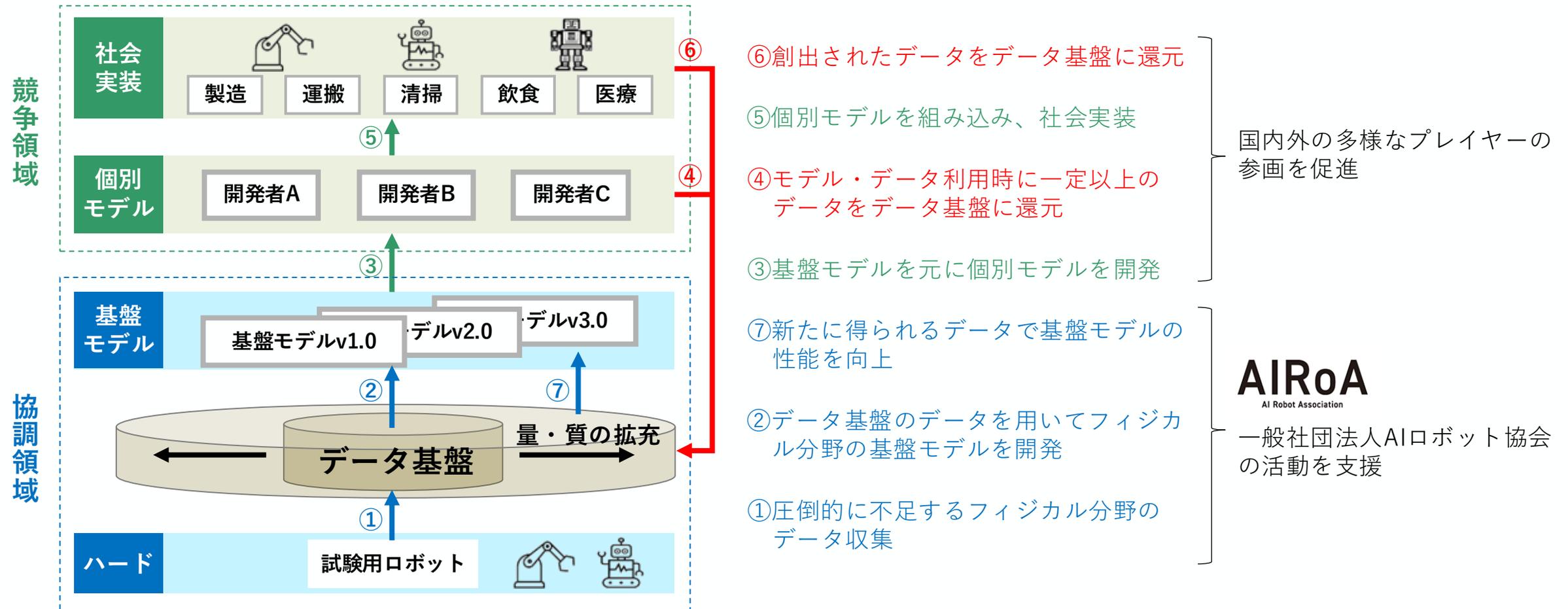
- ・ 組織を超えたデータの収集・提供を行うPF構築を定額補助
- ・ 収集したデータを広く提供し、FBを得てデータの量・質を向上させるものを採択

新規!!

データのAI-Ready化手法の実証を委託・公開

ロボット基盤モデルの開発促進

- オープンなデータ基盤の成長を加速させることにより、基盤モデルの開発や社会実装を促進。



- テーマに応じた具体的なAI関連アプリについて、募集・審査の上、懸賞金を授与。

| | テーマ | 懸賞金総額 | |
|-----|---|-------|--------------------|
| 民 | 国産基盤モデル等を活用した社会課題解決AIエージェント開発 (I. 製造業の暗黙知の形式知化 / II. カスタマーサポートの生産性向上) ● ユーザーが主体となり申請 (AI開発者やSlerと組んだ申請も可能)、 ユーザーの変革につながる検証成果を審査 | 3.5億円 | } 3/24 最終審査&表彰式 |
| 官 | 官公庁等における審査業務等の効率化に資する生成AI開発 ● 特許審査業務をモデルとし、情報探索等を効率化するAIを開発、 その性能を審査 | 2.1億円 | |
| 安全性 | 生成AIの安全性確保に向けたリスク探索及びリスク低減技術の開発 ● AIのリスクや対応策をセットで提案、評価手法の妥当性や波及効果を審査 | 2.2億円 | |

➡ 2026年度は「エッセンシャルワーカーの人手不足対応」「モデル開発人材育成」をテーマにする予定

農林水産業向けの特別賞を予定